



徳島大学病院 むし歯科

中西 正 准教授



増える高齢者のむし歯

厚生労働省が発表した2016年歯科疾患実態調査によると、80歳で20本以上歯が残っている人が50%を超え、残存歯を多く有する高齢者が増えていることが示され、一方で、65歳以上の高齢者ではむし歯を有する人の割合が増加していることも明らかとなりました。加齢に伴う口腔内の変化として、歯ぐきが退縮し歯根が露出するようになりますが、高齢者ではその根面に生じたむし歯(根面う蝕)が増えているのです。

者ではむし歯を有する人の割合が増加していることも明らかとなりました。加齢に伴う口腔内の変化として、歯ぐきが退縮し歯根が露出するようになりますが、高齢者ではその根面に生じたむし歯(根面う蝕)が増えているのです。

ラク菌が食事により摂取した糖質から酸を作り出し、歯質の脱灰を生じることによって発症します。根面は脆弱で薄いセメント質によって表面が覆われているだけであり、歯冠部に比べて脱灰が起こりやすい環境にあります。また、唾液分泌に影響を及ぼす薬剤の服用などにより口腔内が乾燥すると、根面う蝕が進行しやすくなる言われています。特に、ブラッシングがあまりできていない状態でありながら、唾液緩衝能が高いことによって歯冠部のむし歯を生じた人では、唾液分泌が低下すると根面う蝕が多発してしまう傾向があり、注意が必要です。根面う蝕の発生・重症化を予防するには、セルフケアの習慣をいち早く身につけておくことが大事であると言えます。

根面う蝕の治療については、まずその活動性を評価し、治療方針を決定します。むし歯の進行が停止状態にある非活動性病変では経過観察となりますが、むし歯が進行中の状態にある活動性病変では、フッ化物塗布などによる再石灰化療法で進行の停止を図ります。実質欠損が大きい場合や、着色が顕著で審美的改善が必要な場合は、歯質を切削して修復治療することもありますが、歯の弱体化を招く恐れがあり、その選択は慎重を期して行われます。

根面う蝕は、早期発見と長期管理により進行を抑制することが重要です。効果的な予防や治療を行うには口腔内環境の整備が必要です。ので、かかりつけ歯科医を持ち、定期的に受診することが望ましいと考えられています。